

今後のJA経営に中長期的に影響を与える外部環境の変化として、国際財務報告基準(IFRS)とバゼル3(新たな自己資本規制)の動向——の2つを挙げる事ができる。

第一のIFRSでは、上場会社が2015〜16年までの準備と移行が決まったが、連結決算だけでなく、単体決算をどう扱うか、中小企業への適用や、協同組織金融機関への適用はどうするか——など、現時点では明確になっていない事項もある。しかし、国際標準のルールは確実にJAにも影響を及ぼすとみなければならぬ。

⑧2

職場のマネジメント

IFRSで用いられる包

括利益とは、時価を基本に資産価値の変動から負債価値の変動を引いたものだ。この価値とは、資産、負債

IFRSの影響

IFRSで用いられる包括利益とは、時価を基本に資産価値の変動から負債価値の変動を引いたものだ。この価値とは、資産、負債

資本の扱いに留意を

の評価は将来のキャッシュフロー(現金収支)から事業そのものの時価評価を見積もる(バリュエーション)適正価値の算定)ことを意味する。変動は、価値のコントロールで、リスク管理・コントロールそのも

のリスク評価やリスク管理のリスク量も、キャッシュフローが基本だ。会計がキャッシュフローを基本としていたリスク管理の考え方を取り入れ、一体化

見積もるため、貸し出しや貯金も価値を見積もる必要が出てくる。価値の尺度となるのは、将来のキャッシュフローだ。貸し出しは、繰り上げ償還や債務不履行で、貯金も中途解約によって将来の

のポートフォリオ(事業構成)も繰り上げ償還などの実態も十分把握し、キャッシュフローを基本とした経営判断やリスクコントロールが必要な時期にきているといえる。

IFRSの思想は、会計の基本原則を示した上で処理を行う。その意味から影響しそうなのは、協同組合の資本の扱いだ。協同組合は加入・脱退が自由なため、資本が増減することから負債ではないかという議論もあり、留意が必要である。

(JA総研主席研究員・加島徹)

(次回は22日付)